

事業実績報告書

様式2
(2024年度)

講座番号	B-51	講座名	名古屋のごみ、どう減らす！この秋、お店のプラ調査に参加しよう！
記載日	025年2月〇日	団体名・企業名	NPO法人環境市民
〈講座全体の概要〉(300字程度)			
<p>海洋プラスチック問題など、プラスチックによる環境汚染が大きな関心を集めています。市民にできることとして確実な分別排出は当然として、日常の買い物でできるだけプラスチック包装（以下、プラ包装）の少ない商品選びも大切なことです。</p> <p>この講座では、名古屋市のごみや市民の環境意識の現状報告を受け、全国で実施している「お店のプラスチック調査」の紹介を行いました。参加者と名古屋市内の店頭プラ包装（青果物）の現状について市民調査を行い、名古屋市と他地方との比較報告や削減可能なプラ包装、小売事業者によるプラ包装削減や省エネ事例のうち、「地元スーパーに採り入れてほしい取組」などを参加者と話し合いました</p>			
			
※写真1の説明		※写真2の説明	
10月5日開催の第1回講座（ウィンクあいち）で、「お店のプラ調査」の紹介と、参加呼びかけを行いました。		11月30日開催の第2回講座（日本陶磁器センター）で、全国の調査参加者に尋ねたいことを受講者と考えました。	
〈企画・運営者の声(感想)〉(350字程度)			
<p>「お店のプラスチック調査2024」は、スーパーマーケットだけで全国1,240店、愛知県からは75店、うち名古屋市は63店の調査データが寄せられました。講座参加者らと行った調査の結果、名古屋市の店頭プラ包装（青果物）は、2023年に続き、全国平均より少ないことがわかりました。ただ、そのことが1999年のごみ非常事態宣言以降、また、なごや環境大学の開催などによる影響として「地域に根づくよい伝統」なのか、別の要因によるものか、この調査だけではわからず、新たな課題となりました。</p> <p>率直な感想として集客に苦戦しました。広報時の努力や工夫不足かもしれませんが、ごみ非常事態宣言から四半世紀、ごみ分別の励行や買い物袋の持参などは市民に普及・定着していますが、一層のごみ削減を進めるため、本講座のような取組がさまざまな主体によって企画される必要性も感じました。</p>			
〈受講者の声(実感した反応及びアンケートより)〉(3～5点、計350字程度)			
<ul style="list-style-type: none"> ・何気なくスーパーで買い物していましたが、もう少し視点をもっていきたいと思いました。良い取組をしている部分は積極的に投書などで応援していきたいです。 ・プラスチックを減らす意識を持って、プラごみ減量に家庭で取り組んでいきたいと思いました。 ・客の立場で考えて、商品をあまり触らずに選ぶようにしないといけないと思った。 ・いつも買い物をしている店の売り場でも、視点を変えて見てみると、プラスチック包装の多さにあらためて驚かされた。 <p>他、スーパーにとり入れてほしい取組として、「野菜・果物の包装をバンドだけにする」、「必要量だけ買える鮮魚の売り方」、「店内に啓発文言を掲示してほしい」、「サッカー台のプラ袋の必要量消費を呼びかける県統一シール（滋賀県の事例）」などの意見が出ました。</p>			